社会資源の利用において母親ケアラーが直面する困難の検討

ーケアを担う子どもの母親の語りからー

○　北海道大学大学院教育学院博士後期課程　　亀山　裕樹（009792）

キーワード：母親ケアラー、ヤングケアラー、社会資源

１．研 究 目 的

本発表の目的は、子育てをする母親ケアラーがどのように社会資源を利用しているのか、あるいは利用していないのかを検討することである。

現代の日本には、家事やきょうだいの世話、介護といったケアを担う子ども、いわゆる「ヤングケアラー（young carer）」が存在し、その教育や社会参加の機会の制約が取り上げられている。子どもがケアを担う要因としては、ケアの担い手の不足や福祉サービスの不十分性といった家族の利用できる資源の不足が挙げられてきた。

しかしながら、日本国内の先行研究や地方自治体のケアラー支援計画では、資源の不足した家族において「自然」にあるいは「必然的」に子どもがケアを担うとする、若干の距離の残る説明が散見される（亀山 2023）。すなわち、家族の利用できる資源の不足と子どもがケアを引き受けることとのあいだの関係が、依然として不明瞭である。

そこで本研究では、なぜ子どもがケアを引き受けてしまうのかを、家族の利用できる資源の不足に着目して検討する。本発表ではその検討作業の一部として、子育てをする母親ケアラーがどのように社会資源を利用しているのか、あるいは利用していないのかを検討する。

２．研究の視点および方法

本研究では、家族の利用できる資源というときに、所得などの物的・経済的資源のほかに、障害福祉・介護保険・子育て支援サービス等の社会資源を含む。このことは、Wallman（=1996）を参照しつつ子どもの貧困経験の分析枠組みを整理した大澤（2023）の議論を参考にしている。「ある家庭が国の福祉機関を利用するかどうかは、そのほうがうまくいく、いかないというその家庭にとっては筋道だった論理の問題なのである」（Wallman =1996：45）という指摘を踏まえて、社会資源を利用しないことの合理性をも捉える。

20 代以下の子どもと同居しながら障害や病気のある家族のケアを担った経験のある者 30 名を対象に、半構造化インタビューを実施した。2023 年 4 月から 2024 年 4 月にかけて、原則的に 1 対 1 の半構造化インタビューを、1 時間半程度 1 回ずつ実施した。インタビューは原則的に対面で行い、調査協力者が希望した場合のみオンラインビデオ通話で行った。録音をもとに逐語録を作成し、上述の視点に基づき分析を行った。

３．倫理的配慮

インタビューは、プライバシーの守られた空間で、対面またはオンラインビデオ通話にて実施した。調査協力者に対して、調査の目的、方法、調査への参加協力の自由意志と拒否権、プライバシーおよび個人情報の保護、結果の公表方法などについて文書および口頭にて説明をした。調査協力への同意を得て、同意書に署名を頂いた。調査の実施にあたり、「北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査」の承認を得ている（2022年11月30日承認、受付番号22-38）。なお、発表者に関連し開示すべきCOI（利益相反）関係にある企業等はない。

４．研 究 結 果

複数名の調査協力者が、様々な理由で、障害福祉・介護保険・子育て支援サービス等の社会資源を必ずしも十分に利用していなかった。その理由としては、ケアを必要とする本人のニーズに合わないためサービスを利用できない、制度が整えられていない、事業所等の不足、事業所等の受け入れの都合、ケアの質にかかわる不安や不信感、サービス利用の手続きやマネジメントの困難、金銭的な制約、情報の不足などが挙げられた。このような理由で社会資源を十分に利用していないことが、子どもがケアを引き受けることにも影響を及ぼしていた。

５．考 察

子どもがケアを引き受けることは、先行研究が指摘する通り、家族の利用できる資源の不足とかかわっているとたしかに考えられる。そのうえで本報告の検討結果からは、障害福祉・介護保険・子育て支援サービス等の社会資源が、様々な理由で必ずしも十分に利用されておらず、その結果として家族の利用できる資源が不足し、子どもがケアを引き受けることに影響を及ぼしていることがうかがえる。

このことから、子どもがケアを日常的に行うことへの支援について、その親を非難するばかりでは解消せず、社会資源をより利用しやすくより多様なケアニーズに対応可能なものにしていく必要があると示唆される。

引用文献

亀山裕樹（2023）「ケアをめぐる交渉において子どもが直面する制約の検討――A. Senの協調的対立概念を用いて」『社会福祉学』64（2），1-13.

大澤真平（2023）『子どもの「貧困の経験」――構造の中でのエージェンシーとライフチャンスの不平等』法律文化社.

Wallman, S.（1984）*Eight London Households*, London: Tavistock Publications.（=1996，福井正子訳『家庭の三つの資源――時間・情報・アイデンティティ』河出書房新社.）